

〔参考資料 1 東京都内の地盤環境〕

参考資料1 東京都内の地盤環境

地形区分	区部低地部				区部台地部				多摩台地部			
標高	- 2.8 ~ 8m				8 ~ 55m				55 ~ 350m			
地層区分	地層名	層相	帯水状態	層厚	地層名	層相	帯水状態	層厚	地層名	層相	帯水状態	層厚
沖積層の構成	有楽町層	上部砂層	不圧	0 ~ 5	上位層 ^{注1)}	腐植土層		数m	上位層 ^{注1)}	腐植土層		数m
		シルト層		20 ~ 40	基底層 ^{注1)}	砂礫層	被圧	1m程度	基底層 ^{注1)}	砂礫層	被圧	1m程度
	七号地層	シルト層・砂層互層		10 ~ 20	該当層なし				該当層なし			
		基底礫層 (足立砂礫層)	被圧	10								
洪積層の構成	埋没ローム層	火山灰層		5	関東口-ム層	火山灰層	不圧	5 ~ 10	関東口-ム層	火山灰層	不圧	10
	埋没段丘礫層	砂礫層	被圧	5 ~ 10	段丘礫層	砂礫層	不圧	5 ~ 10	段丘礫層	砂礫層	不圧	20
	東京層	シルト層・砂層互層	被圧	30	東京層	シルト層・砂層互層	被圧	15	該当層なし			
		基底礫層 (東京礫層)	被圧	5 ~ 8		基底礫層 (東京礫層)	被圧	5 ~ 8				
	高砂層	互層 ^{注2)}	被圧	0 ~ 200	該当層なし							
	江戸川層	互層 ^{注2)}	被圧	20 ~ 100	江戸川層	互層 ^{注2)}	被圧	0 ~ 30				
	舎人層	互層 ^{注2)}	被圧	0 ~ 200	舎人層	互層 ^{注2)}	被圧	0 ~ 150	舎人層	互層 ^{注2)}	被圧	0 ~ 150
	東久留米層	砂層	被圧	50 ~ 100	東久留米層	砂層	被圧	50 ~ 200	東久留米層	砂層・砂礫層	被圧	250
	北多摩層	固結シルト層	被圧		北多摩層	固結シルト層	被圧		北多摩層	互層 ^{注2)}	被圧	200
瑞穂砂礫層												

注1) 中小河川沿いに分布

注2) シルト層・砂層・砂礫層の互層であり、挟在する砂層及び砂礫層が被圧地下水の帯水層

地形区分	区部低地部	区部台地部	多摩台地部
分布する地層と帯水層	<p>沖積層 有楽町層 上部砂層(不圧地下水) 下部シルト層 七号地層 シルト層、砂層の互層 基底礫層</p> <p>洪積層 埋没口-ム層 埋没段丘砂礫層(被圧地下水) 東京層~東久留米層:砂層、砂礫層 (被圧地下水) 北多摩層:固結シルト層を主体に砂層、砂礫層を挟在 (被圧地下水)</p>	<p>沖積層 中小河川沿いの腐植土層・砂礫層</p> <p>洪積層 関東ローム層(不圧地下水) 段丘砂礫層(不圧地下水) 東京層~東久留米層:砂層、砂礫層 (被圧地下水) 北多摩層:固結シルト層を主体に砂層、砂礫層を挟在 (被圧地下水)</p>	<p>沖積層 中小河川沿いの腐植土層・砂礫層</p> <p>洪積層 関東ローム層(不圧地下水) 段丘砂礫層(不圧地下水) 舎人層~東久留米層: 砂層、砂礫層 (被圧地下水) 北多摩層: 上部に砂層、砂礫層が分布 (被圧地下水)</p>
地下水かん養 及び 地下水流動状況	<p>・地下水かん養状況の悪い地域</p> <p>・主に台地部から低地部へ向かう地下水流動により地下水位上昇</p>	<p>・地域により関東ロ-ム層・段丘砂礫層の不圧地下水が下位層群の地下水をかん養</p> <p>・低地部へ向かう地下水流動あり</p>	<p>・地域により関東ロ-ム層・段丘砂礫層の不圧地下水が下位層群の地下水をかん養</p> <p>・多摩川左岸域では、多摩川の表流水が帯水層の地下水をかん養</p> <p>・低地部へ向かう地下水流動あり</p>
圧密を生じた主な地層(=地盤沈下をもたらした主な地層)	<p>沖積層:シルト層 洪積層:東京層~東久留米層に挟在するシルト層 北多摩層の固結シルト層</p>	<p>東京層~東久留米層に挟在するシルト層 北多摩層の固結シルト層</p>	<p>舎人層~東久留米層に挟在するシルト層</p>

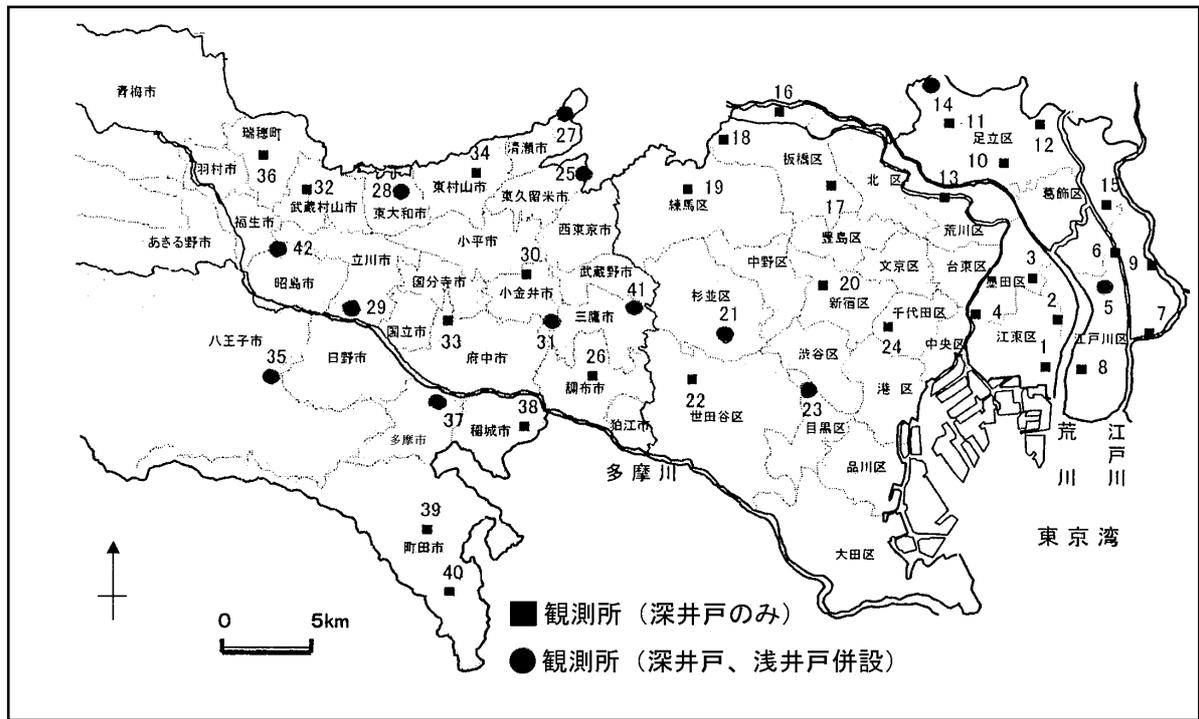
地形区分	区部低地部	区部台地部	多摩台地部
観測体制（平成 18 年現在） （付図 - 1、付表 - 1 参照）	1 9 観測所 4 3 観測井	5 観測所 6 観測井	1 8 観測所 4 2 観測井
地盤沈下の状況 （付図 - 2 参照）	<p>江東地区では大正時代の初期に、江戸川区及び足立区では大正時代の末期から昭和の初期にかけて地盤沈下が発生している。その後、第二次世界大戦末期に地盤沈下は一時鎮まったが、昭和 25 年頃から、生産活動の回復に伴って再び沈下が始まった。昭和 43 年に江戸川区で 23.89cm の年間沈下量の最大を記録した。</p> <p>諸規制により、昭和 48 年から低地ではほぼ全域にわたって地下水位が上昇し、地盤沈下は急激に減少するとともに、一部の地域で地表面の隆起が測定された。</p> <p>昭和 51 年からは、5cm 以上沈下する地域がみられなくなった。</p> <p>地盤沈下は沈静化し、昭和 54 年以降、2cm 以上沈下する地域がみられたのは、昭和 56 年(2.48cm)、昭和 59 年(2.16cm)、平成 6 年(2.03cm)である。</p>	<p>昭和 47 年に練馬区で 10.63cm の年間沈下量の最大を記録した。</p> <p>昭和 50 年からは 5cm 以上沈下する地域がみられなくなった。</p> <p>地盤沈下は沈静化し、昭和 54 年以降、2cm 以上沈下する地域がみられなくなった。</p>	<p>昭和 46 年以前は未測量</p> <p>昭和 47 以降、一部地域で沈下が顕在化した。</p> <p>昭和 48 年には清瀬市で 21.65cm 年間沈下量の最大を記録した。</p> <p>昭和 50 年から地盤沈下は急激に減少した。</p> <p>昭和 54 年からは 5cm 以上沈下した地域はなくなった。</p> <p>地盤沈下は沈静化し、昭和 54 年以降、2cm 以上沈下する地域がみられたのは、昭和 54 年(2.17cm)、昭和 56 年(2.50cm)、昭和 59 年(3.22cm)、平成 6 年(3.04cm)である。</p> <p>上水道用に地下水が多量に揚水されていることから、地盤沈下は、各年の水需要の影響を受けやすい状態にある。</p>
昭和 47 年から平成 16 年の 主な観測所における被圧 地下水の水位の経年変化 （変動量） （付図 - 3 参照） （ ）内の数値は、ストレナー 深さを示す。	<p>上昇（約 20～40m）</p> <p>南砂町第 1 (65～70m) 27m</p> <p>南砂町第 2 (125～130m) 27m</p> <p>亀戸第 1 (56～61m) 31m</p> <p>亀戸第 2 (139～144m) 33m</p> <p>小島第 2 (70～77m) 24m</p> <p>小島第 3 (123～134m) 30m</p> <p>小島第 4 (212～229m) 30m</p> <p>神明南第 1 (99～104m) 36m</p> <p>神明南第 2 (170～177m) 39m</p> <p>神明南第 3 (304～330m) 27m</p> <p>戸田橋第 1 (258～268m) 35m</p> <p>戸田橋第 2 (103～113m) 40m</p> <p>戸田橋第 3 (51～59m) 39m</p>	<p>上昇（約 20m）</p> <p>練馬第 1 (87～97m) 23m</p> <p>練馬第 2 (185～195m) 20m</p>	<p>上昇（約 - m）</p> <p>東久留米第 1 (85～90m) 25m</p> <p>東久留米第 2 (158～169m) 26m</p> <p>東久留米第 3 (393～417m) 8m</p> <p>調布第 1 (20～25m) 2m</p> <p>調布第 2 (43～53m) -1m</p> <p>調布第 3 (84～95m) 8.6m</p> <p>調布第 4 (146～162m) 10m</p> <p>清瀬第 1 (77～83m) 16m</p> <p>清瀬第 2 (158～186m) 15m</p> <p>清瀬第 3 (385～407m) 5m</p> <p>多摩台地部の観測井は昭和 47 年以降に設置されたため、設置年から平成 16 年までの変動量である（参考値）。</p>

地形区分	区部低地部	区部台地部	多摩台地部
不圧地下水の水位の経年変化 (付表 - 2 参照)	横這い	データなし	横這い
地下水位と地盤沈下の関係	<p>地盤沈下の主な原因は、地下水の大量の揚水によって地下水位が低下し、地盤中の粘土層などの軟弱な地層が広い範囲にわたって収縮することによるものである。</p> <p>地下水位の上昇に伴い地盤沈下は沈静化している。揚水規制の効果と台地部から低地部へ向かう地下水流動により地下水位が上昇傾向にある。</p>	<p>地盤沈下の主な原因は、地下水の大量の揚水によって地下水位が低下し、地盤中の粘土層などの軟弱な地層が広い範囲にわたって収縮することによるものである。</p> <p>地下水位の上昇に伴い地盤沈下は沈静化している。地下水位の上昇傾向は鈍化している。</p>	<p>地盤沈下の主な原因は、地下水の大量の揚水によって地下水位が低下し、地盤中の粘土層などの軟弱な地層が広い範囲にわたって収縮することによるものである。</p> <p>地下水位の上昇に伴い地盤沈下は沈静化している。しかし、地下水位の上昇傾向は鈍化している。</p>
地盤沈下の原因となった主な層	表層に近い沖積層 (GL-100m 以浅) が激しく収縮した。	GL-100m 以深の深い地層 (洪積層) が収縮した。	GL-100m 以深の深い地層 (洪積層) が収縮した。
地盤安定性	良好でない	良好 (中小河川沿い除く)	良好 (中小河川沿い除く)
地盤沈下再発リスク及び再発時の影響	あり		
地盤沈下による主な被害	<p>構築物の抜け上がり 橋桁沈下による船舶の運航不良 護岸沈下による高潮時の溢水 高潮時の護岸目地からの漏水 地中配管構造物 (上・下水道管、ガス管、ケーブル等) の亀裂・破損 水門・樋門の機能不能 排水不良による慢性的湿地帯の出現 工場における精密機械の使用不能 (不等沈下が発生)</p>	<p>河床勾配の変化 下水道管等長管構造物の勾配変化</p>	<p>河床勾配の変化 下水道管等長管構造物の勾配変化</p>

地形区分	区部低地部	区部台地部	多摩台地部	
井戸（H16 現在）及び湧水の状況 （付表 - 3 参照）	環境確保条例対象井戸：940 本 湧水：千代田、港、品川、大田、板橋、及び北の各区台地部に存在	環境確保条例井戸：782 本（東京都水道局水源 3 本） 湧水：存在	井戸：1,717 本（東京都水道局水道水源 290 本、東京都水道局以外の水道水源井戸 49 本） 湧水：多い	
湧水への配慮	必要な地域あり（湧水の存在）	必要（湧水の存在）	極めて必要（湧水が多い）	
揚水規制	工業用水法	規制地域 （千代田区、中央区、港区、品川区、大田区、台東区を除く）	非規制地域	
	建築物用地下水の採取に関する法律（ビル用水法）	規制地域	非規制地域	
	環境確保条例	規制地域 構造基準等 揚水量の測定・報告義務	規制地域 構造基準等 揚水量の測定・報告義務	規制地域 構造基準等 揚水量の測定・報告義務
地下水の利	過去の揚水量	最大約 30.2 万 m ³ /日(昭和 45 年)	最大約 15.4 万 m ³ /日(昭和 46 年)	最大約 86.1 万 m ³ /日(昭和 47 年)
	現在（16 年）の揚水量	1.5 万 m ³ /日	2.9 万 m ³ /日	51.2 万 m ³ /日
用状況	主な用途 （付図 - 4 参照） 江東区・江戸川区において S47 年まで天然ガス採取のための大量揚水	公衆浴場、池などへの導水	上水道水源、食品等工場	
地下水質（塩水化）	地域により塩水化	-	-	
地下水揚水にあたっての地元の関心	地盤沈下の再発防止	湧水保全	湧水保全	

構造基準適用除外：工水法・ビル用水法・温泉法・水道法・河川法許可施設、一定規模以下の公衆浴場の施設、非常災害用等知事が認める施設）

参考資料 1 の付表及び付図集



付図 - 1 観測所の配置

付表 - 1 - 1 観測井の一覧 (区部低地部、区部台地部)

(平成16年12月現在)

地域	地点 No	整理 No	鉄管 No	観測井名	所在地	設置			
						年月	鉄管 深さ (m)	鉄管 の径 (cm)	ストレーナ の深さ (m)
江東区	1	1	研 15	南砂町 第1	南砂三丁目、南砂少年野球場東側脇	昭 29.5	70	20	65~ 70
		2	研 23	南砂町 第2		昭 36.3	130	20	125~ 130
江東区	2	3	研 12	亀戸 第1	亀戸九丁目、城東清掃事務所内	昭 27.6	61	20	56~ 61
		4	研 22	亀戸 第2		昭 35.6	144	20	139~ 144
墨田区	3	5	研 13	吾嬭 A	立花五丁目、下水道局吾嬭ポンプ所内	昭 28.5	47	20	42~ 47
		6	研 16	吾嬭 B		昭 30.6	115	20	103~ 115
墨田区	4	7	研 65	両国 第1*	両国一丁目、隅田川両国橋下流左岸	昭 49.3	38	8	35~ 37
		8	研 66	両国 第2		昭 49.3	126	20	76~ 87
江戸川区	5	9	研 29	新江戸川第1(浅井戸)	松島二丁目、都立江戸川高校内南角	昭 38.12	71	5	2~ 10
		10	研 30	新江戸川第2		昭 38.12	151	20	129~ 150
		11	研 31	新江戸川第3*		昭 41.2	450	10	313~ 346
	6	12	研 28	小岩	上一色三丁目、五建江戸川北工区内	昭 38.8	56	20	47~ 55
		13	研 38	江戸川東部第1		昭 45.3	70	20	62~ 67
	7	14	研 39	江戸川東部第2	江戸川三丁目、八雲神社向側	昭 45.3	161	20	150~ 160
		15	研 40	江戸川東部第3*		昭 45.3	400	15	291~ 306
		16	研 48	小島 第1		西葛西二丁目、八幡神社向側	昭 47.3	40	8
	8	17	研 49	小島 第2	昭 47.3		80	20	70~ 77
		18	研 50	小島 第3	昭 47.3		150	20	123~ 134
19		研 51	小島 第4*	昭 47.3	270		15	212~ 229	
9	20	研 52	篠崎 第1	上篠崎一丁目、都立篠崎公園北東角	昭 47.3	65	20	55~ 60	
	21	研 53	篠崎 第2*		昭 47.3	265	15	250~ 260	
	22	研 54	篠崎 第3*		昭 47.3	340	15	300~ 315	
足立区	10	23	研 32	新足立	中央本町一丁目、都立足立高校内南西角	昭 43.3	270	20	224~ 234
		11	研 55	伊興		昭 47.6	120	20	87~ 115
	12	25	研 42	神明南 第1	神明南二丁目、足立区神明南材料置場内	昭 46.3	110	20	99~ 104
		26	研 43	神明南 第2		昭 46.3	180	20	170~ 177
		27	研 44	神明南 第3*		昭 46.3	380	15	304~ 330
	13	28	研 103	小台 第1	小台一丁目、尾久橋下	平 2.3	50	20	40~ 45
		29	研 104	小台 第2		平 2.3	170	20	148~ 160
		30	研 105	小台 第3*		平 2.3	300	15	212~ 234
	14	31	研 1	舎人(浅井戸)	舎人六丁目、舎人いきいき公園北東角	昭 49.3	6	7	2~ 6
		32	研 62	舎人 第1		昭 49.3	27	7	22~ 27
33		研 63	舎人 第2*	昭 49.3		200	15	172~ 184	
34		研 64	舎人 第3*	昭 49.3		340	15	290~ 302	
葛飾区	15	35	研 41	高砂	高砂四丁目、高砂北公園西側	昭 46.3	124	20	118~ 123
板橋区	16	36	研 24	戸田橋 第1*	舟渡四丁目、都土木技研戸田橋実験場内	昭 36.6	290	8	258~ 268
		37	研 25	戸田橋 第2*		昭 36.10	113	8	103~ 113
		38	研 26	戸田橋 第3		昭 37.9	60	20	51~ 59
	17	39	研 36	板橋	富士見町、都営板橋富士見町アパート東側	昭 44.3	270	20	188~ 199
板橋区	18	40	研 56	上赤塚 第1	赤塚三丁目、上赤塚公園北角	昭 48.3	150	20	111~ 122
		41	研 57	上赤塚 第2*		昭 48.3	250	15	189~ 211
		42	研 58	上赤塚 第3*		昭 48.3	400	15	327~ 355
練馬区	19	43	研 34	練馬 第1	谷原四丁目、練馬区谷原材料置場内	昭 44.3	100	20	87~ 97
44	研 35	練馬 第2	昭 44.3	200		20	185~ 195		
新宿区	20	45	研 33	新宿	百人町三丁目、百人町ふれあい公園南側	昭 44.1	130	20	114~ 125
杉並区	21	46	浅 11	杉並(浅井戸)	大宮二丁目、都立和田堀公園 グランド北側脇	平 5.3	10	20	4~ 8
		47	研 110	杉並*		平 5.3	180	15	115~ 143
世田谷区	22	48	研 111	世田谷	粕谷一丁目、都立芦花公園南西側	平 6.3	130	20	87~ 109
目黒区	23	49	浅 12	目黒(浅井戸)	青葉台三丁目、大坂橋子供遊び場脇	平 6.3	15	20	9~ 13
		50	研 112	目黒		平 6.3	156	20	125~ 147
千代田区	24	51	研 113	千代田 第1	紀尾井町、清水谷公園北角	平 7.3	33	20	19~ 28
		52	研 114	千代田 第2		平 7.3	113	20	92~ 109

- (注) 1. 「観測井名」で、*印がついたものは二重管式観測井、(浅井戸)は不圧地下水観測井を表す。
 2. 「鉄管深さ」および「ストレーナの深さ」は、いずれも設置時における地表面からの深さである。
 3. 新江戸川第1は、浅層部から不圧地下水の流入があったため、平成15年3月、浅井戸に改修した。

出典：東京都土木技術研究所「平成16年地盤沈下調査報告書」

付表 - 1 - 2 観測井の一覧 (多摩台地部)

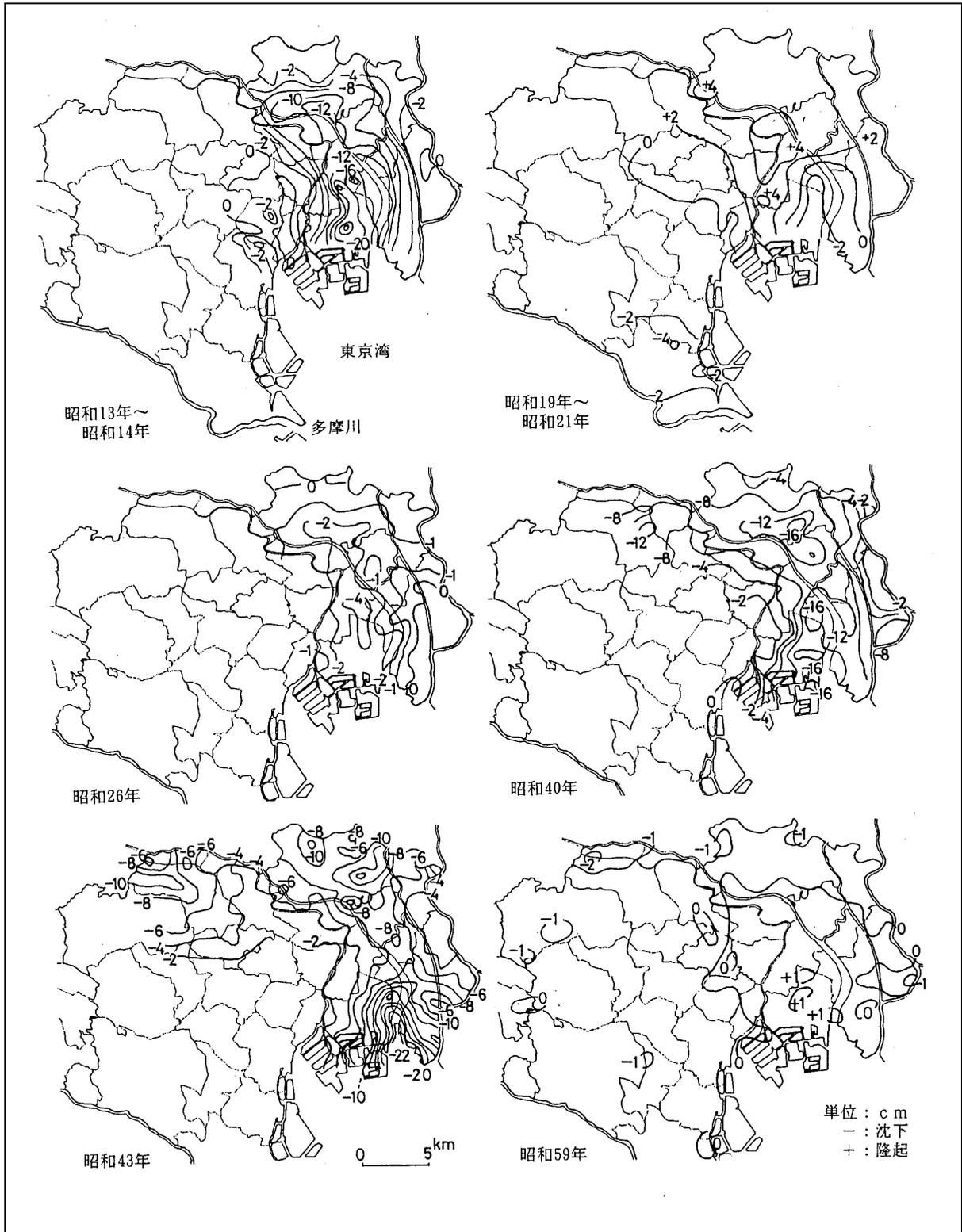
(平成16年12月現在)

地域	地点No	整理No	鉄管No	観測井名	所在地	設置年月	鉄管深さ(m)	鉄管の径(cm)	ストレーナの深さ(m)
東久留米	25	53	浅 2	東久留米 (浅井戸)	神宝町一丁目、黒目川・落合川合流点付近	昭 48.2	5	20	4~ 5
		54	研 59	東久留米 第1		" 49.3	92	20	85~ 90
		55	" 60	" 第2		" 49.3	175	20	158~ 169
		56	" 61	" 第3 *		" 49.3	441	15	393~ 417
調布市	26	57	研 67	調 布 第1	調布ヶ丘三丁目、野川虎狛橋下流右岸	昭 50.3	26	20	20~ 25
		58	" 68	" 第2		" 50.3	56	20	43~ 53
		59	" 69	" 第3		" 50.3	101	20	84~ 95
		60	" 70	" 第4 *		" 50.3	171	15	146~ 162
清瀬市	27	61	浅 3	清 瀬 (浅井戸)	中清戸四丁目、清瀬第八小学校南側脇	昭 50.3	10	20	7~ 9
		62	研 71	清 瀬 第1		" 50.3	94	20	77~ 83
		63	" 72	" 第2 *		" 50.3	207	15	158~ 186
		64	" 73	" 第3 *		" 50.3	450	15	385~ 407
東大和市	28	65	浅 4	東大和 (浅井戸)	奈良橋三丁目、東大和第一中学校北東角	昭 53.3	12	20	9~ 11
		66	研 74	東大和 第1		" 53.3	92	20	75~ 81
		67	" 75	" 第2 *		" 53.3	175	15	154~ 165
		68	" 76	" 第3 *		" 53.3	260	15	226~ 248
立川市	29	69	浅 5	立 川 (浅井戸)	富士見町三丁目、残堀川滝下付近	昭 54.3	8	20	5~ 7
		70	研 77	立 川 第1		" 54.3	108	20	90~ 102
		71	" 78	" 第2 *		" 54.3	280	15	238~ 255
小金井市	30	72	研 79	小金井 第1	桜町三丁目、都立小金井公園西門付近	昭 55.3	95	20	71~ 83
		73	" 80	" 第2 *		" 55.3	162	15	140~ 151
		74	" 81	" 第3 *		" 55.3	296	15	243~ 259
	31	75	浅 10	小金井南 (浅井戸)	東町五丁目、都立武蔵野公園内 野球場南東脇	平 4.3	10	20	3~ 8
		76	研 108	小金井南 第1		" 4.3	130	20	114~ 125
武蔵村山市	32	77	" 109	" 第2 *		" 4.3	210	15	167~ 189
		78	研 82	武蔵村山 第1	三ツ藤三丁目、山王森公園南角	昭 56.3	103	20	94~ 100
79	" 83	" 第2 *	" 56.3	189		15	164~ 175		
80	" 84	" 第3 *	" 56.3	280		15	254~ 265		
府中市	33	81	研 85	府 中 第1	武蔵台二丁目、武蔵台小学校北東側	昭 57.3	34	20	28~ 33
		82	" 86	" 第2 *		" 57.3	174	15	142~ 153
		83	" 87	" 第3 *		" 57.3	290	15	213~ 241
東村山市	34	84	研 88	東村山 第1	久米川町二丁目、空堀川達磨坂橋下流左岸	昭 58.3	44	20	37~ 42
		85	" 89	" 第2 *		" 58.3	201	15	170~ 181
		86	" 90	" 第3 *		" 58.3	294	15	257~ 273
八王子市	35	87	浅 6	八王子 (浅井戸)	大和田町二丁目、南多摩西部建設事務所 水防倉庫西側脇	昭 59.3	10	20	5~ 10
		88	研 91	八王子 第1		" 59.3	105	20	88~ 100
		89	" 92	" 第2 *		" 59.3	220	15	148~ 175
瑞穂町	36	90	研 93	瑞 穂 第1	箱根ヶ崎、西多摩建設事務所箱根ヶ崎 排水調整場南西角	昭 60.3	94	20	76~ 93
		91	" 94	" 第2 *		" 60.3	180	15	142~ 169
多摩市	37	92	浅 13	新多摩 (浅井戸)	関戸三丁目、多摩中学校北西角	平 11.2	10	20	5~ 10
		93	研 115	新多摩		" 11.2	180	20	92~ 125
稲城市	38	94	研 96	稲 城 *	東長沼、稲城第三中学校北西角	昭 62.3	220	15	189~ 211
		95	研 97	町 田 第1		野津田町、薬師池公園管理事務所東側	昭 63.3	100	20
町田市	39	96	" 98	" 第2 *	" 63.3		190	15	147~ 169
		97	研 106	町田南 第1	高ヶ坂、高瀬第2公園西側脇	平 3.3	60	20	42~ 53
三鷹市	41	98	" 107	" 第2 *		" 3.3	225	15	176~ 203
		99	浅 8	三 鷹 (浅井戸)	牟礼四丁目、都立井の頭恩賜公園・ 小鳥の森南西脇	平 元.3	15	20	10~ 15
		100	研 99	三 鷹 第1		" 元.3	118	20	97~ 113
101	" 100	" 第2 *	" 元.3	260		15	178~ 233		
昭島市	42	102	浅 9	昭 島 (浅井戸)	美堀町三丁目、堀向児童遊園北西脇	平 2.3	13	20	8~ 13
		103	研 101	昭 島 第1		" 2.3	110	20	92~ 103
		104	" 102	" 第2 *		" 2.3	236	15	187~ 210

(注) 1. 「観測井名」で、*印がついたものは二重管式観測井、(浅井戸)は不圧地下水位観測井を表す。

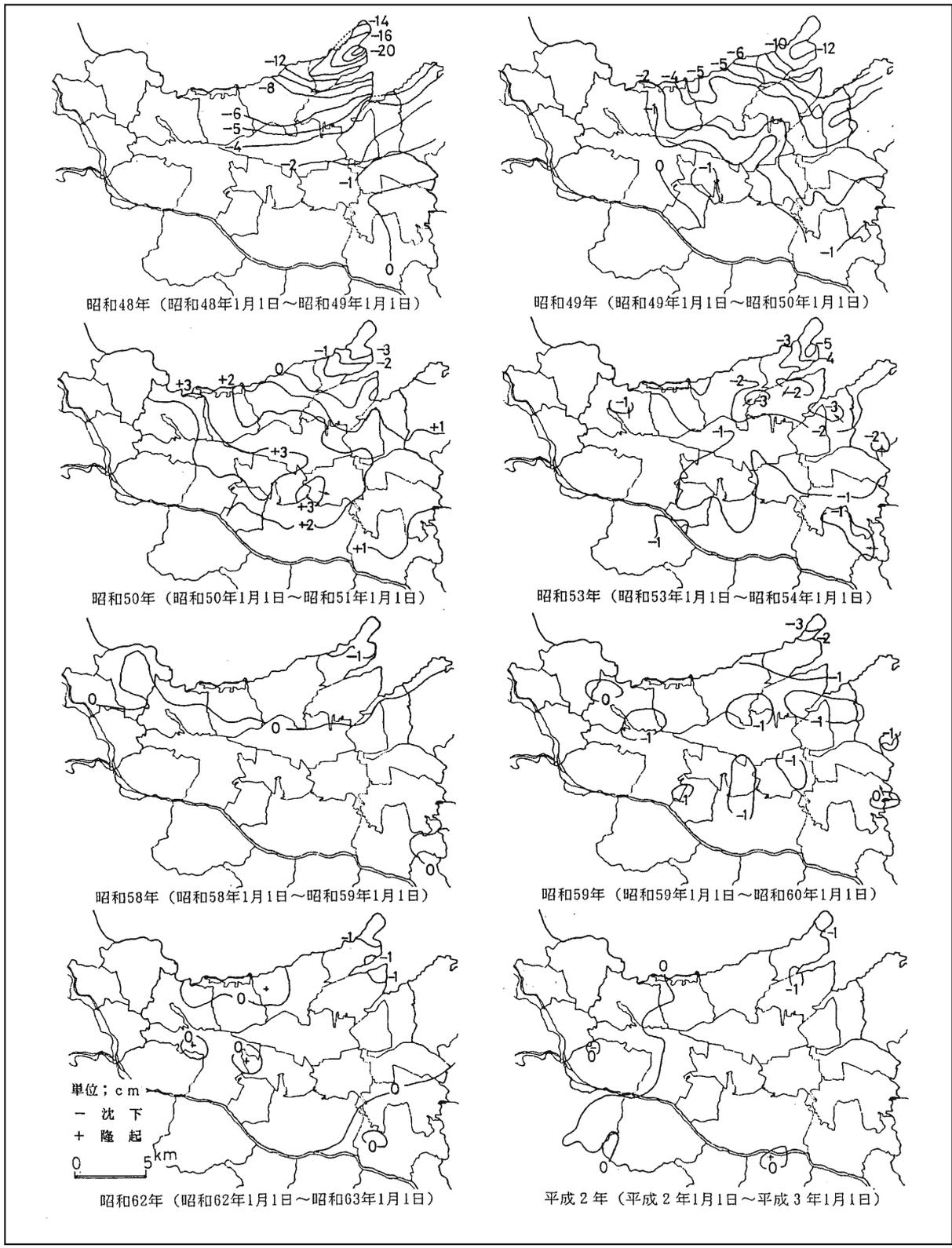
2. 「鉄管深さ」および「ストレーナの深さ」は、いずれも設置時における地表面からの深さである。

出典：東京都土木技術研究所「平成16年地盤沈下調査報告書」



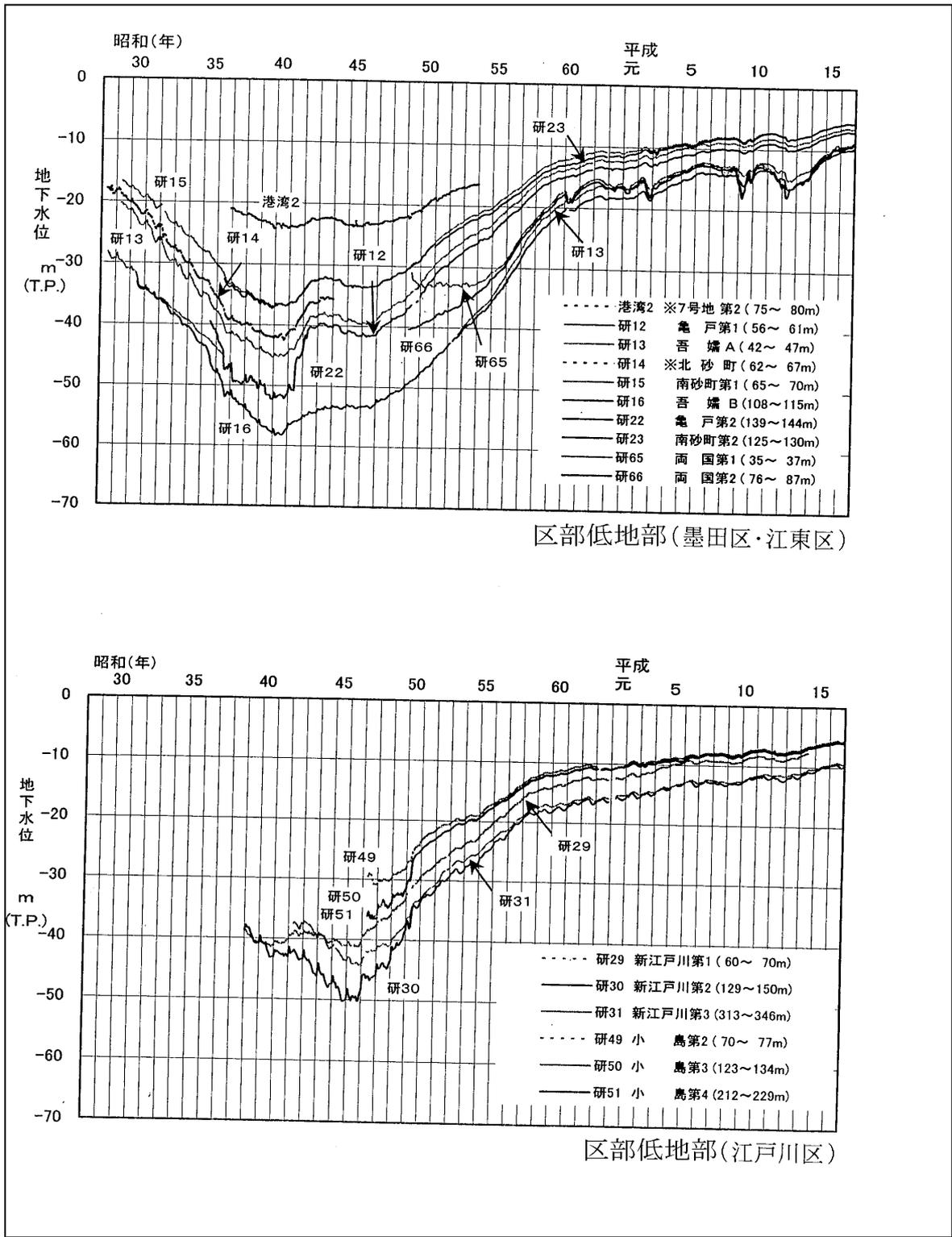
付図 - 2 - 1 区部における地盤変動状況の変遷

出典: 東京都土木技術研究所「平成16年地盤沈下調査報告書」



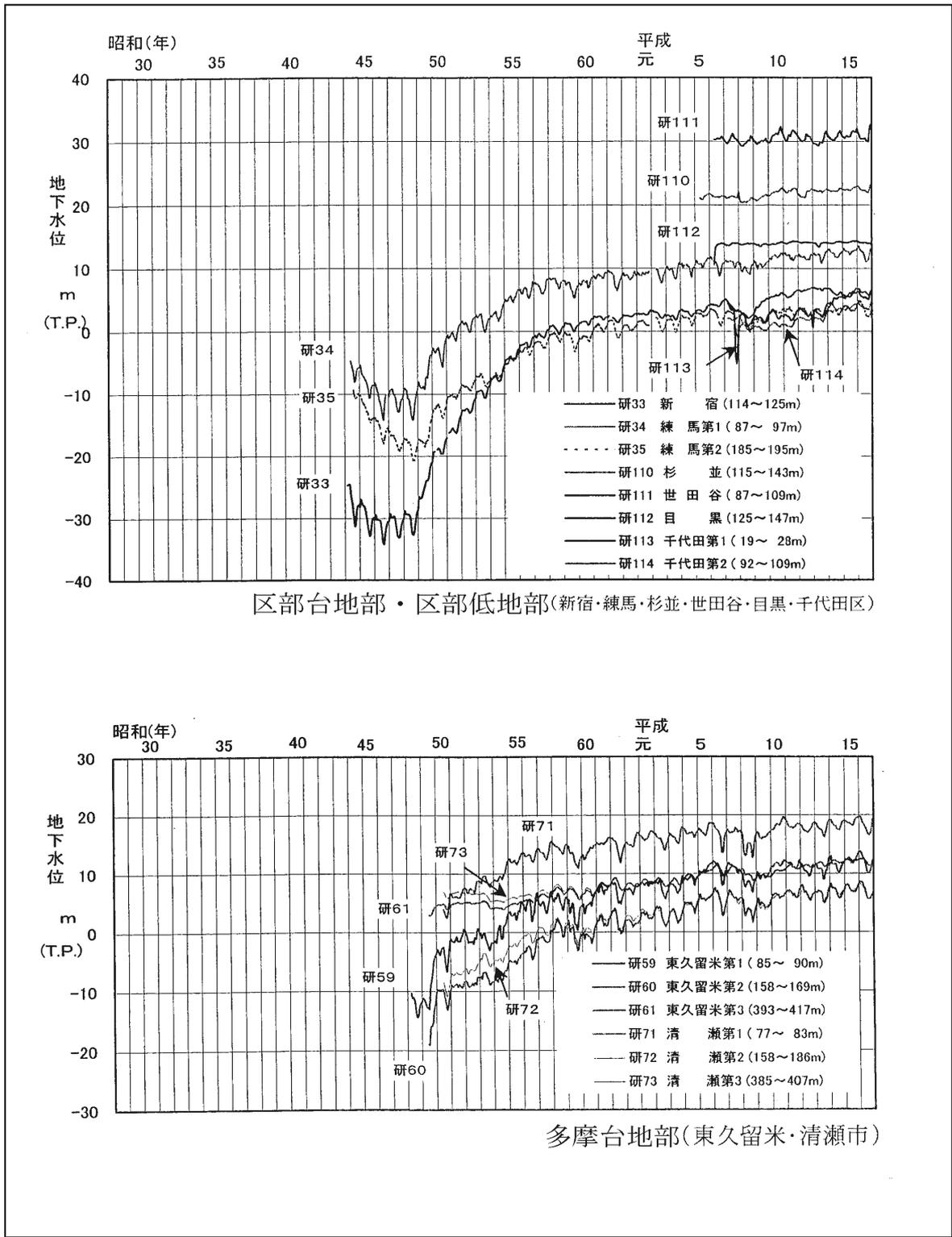
付図 - 2 - 2 多摩部における地盤変動状況の変遷

出典: 東京都土木技術研究所「平成16年地盤沈下調査報告書」



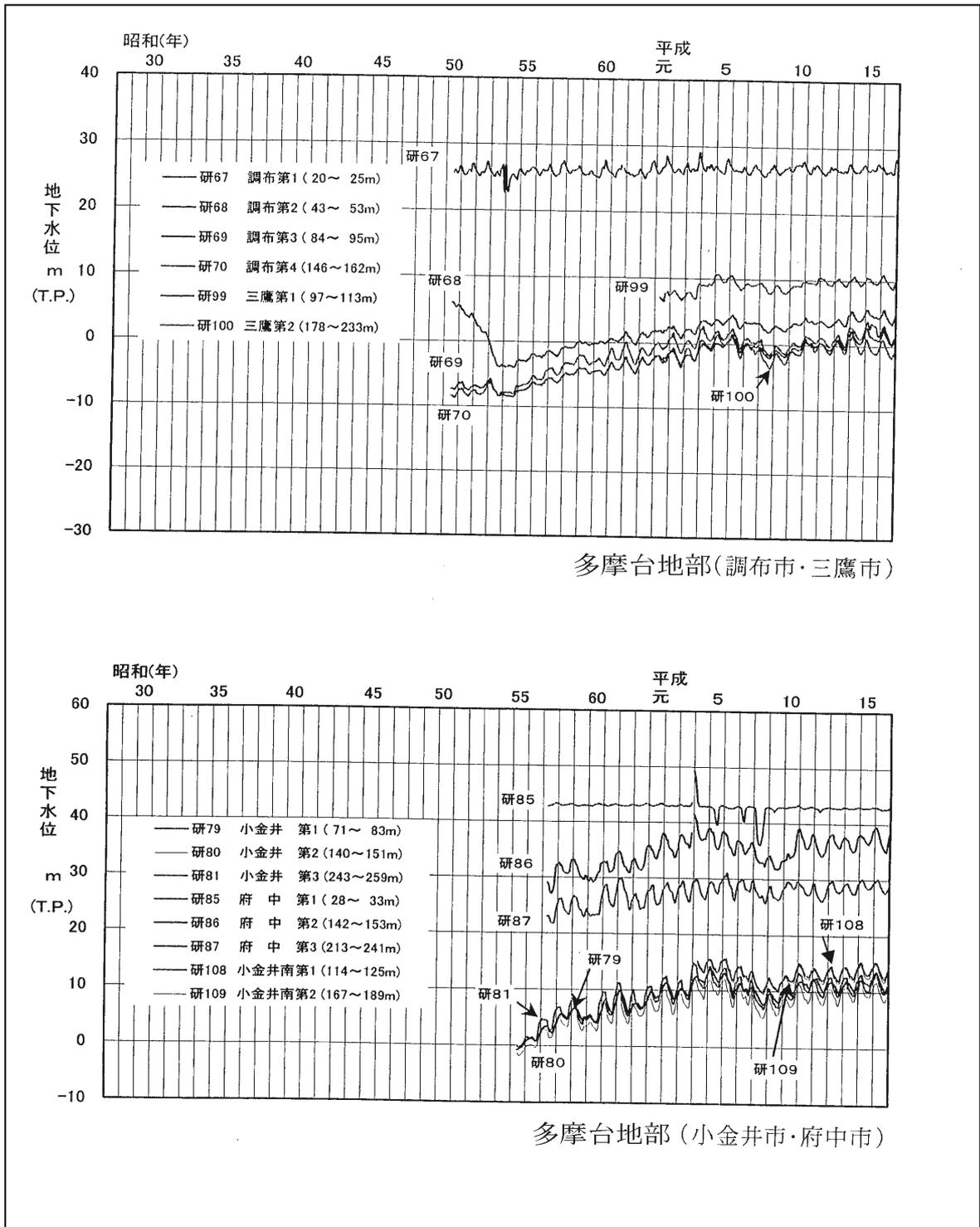
付図 - 3 - 1 被圧地下水の水位の経年変化 (区部低地部)

出典:東京都土木技術研究所「平成16年地盤沈下調査報告書」



付図 - 3 - 2 地下水位の経年変化 (区部低地部、区部台地部、多摩台地部)

出典:東京都土木技術研究所「平成16年地盤沈下調査報告書」



付図 - 3 - 3 地下水位の経年変化 (多摩台地部)

出典：東京都土木技術研究所「平成16年地盤沈下調査報告書」

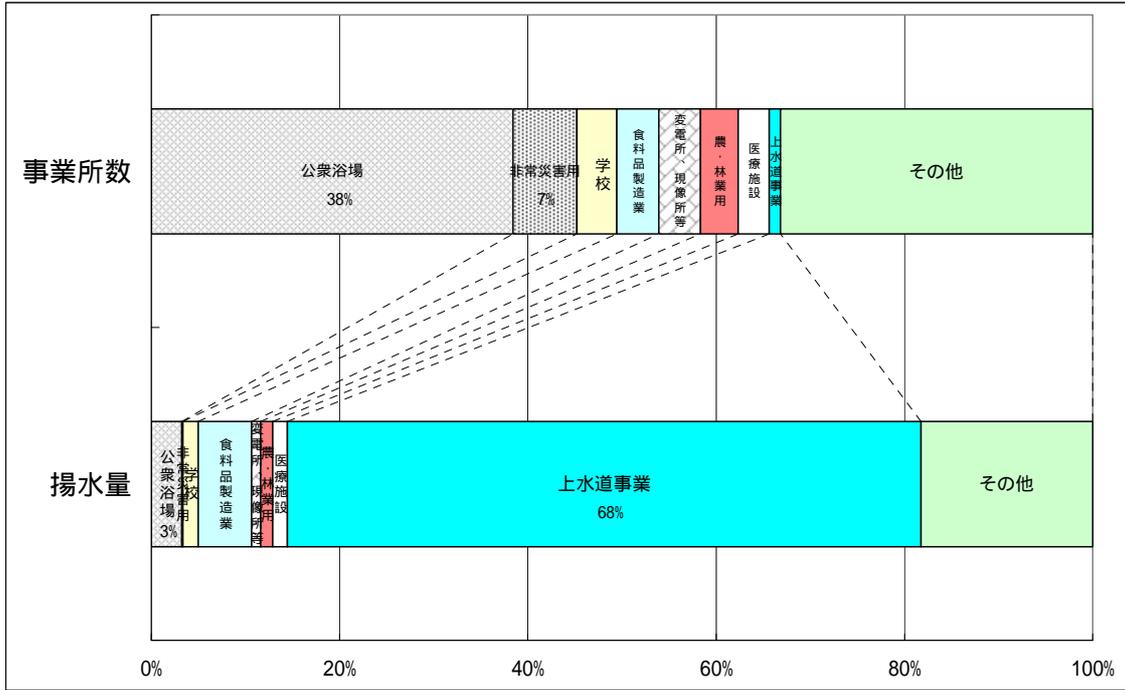
付表 - 2 不圧地下水の水位（各年2月の平均地下水位 T.P. ; m）

	昭和55年	昭和59年	平成元年	平成6年	平成11年	平成16年
舎人	1.98	1.94	1.94	2.02	1.88	1.86
立川	68.54	67.02	68.53	68.91	68.74	69.00
八王子	-	-	-	99.35	-	99.34
東久留米	36.99	36.86	36.91	36.72	36.81	36.51
清瀬	36.52	36.13	36.20	36.32	36.03	36.27
東大和	87.15	86.45	86.46	86.51	86.69	86.40

付表 - 3 都内の湧水地点数

調査年度	平成2年度	平成7年度	平成12年度	平成15年度
区部	227	280	290	280
多摩部	396	373	427	424
都内全域	623	653	717	704

（注）島しょは除く。



付図 - 4 東京都内の揚水施設を設置する事業所の業種と揚水量の割合（平成 16 年）